



祝入学式



校長通信『道標(みちしるべ)』 第15号

祝入学号

令和3年4月7日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



二十四節気：清明(清浄明潔)・・・すべてのものが清らかで生き生きしている季節です。

第62回(令和3年度) 入学式に当たって

第62回新入生の皆さん、保護者等の皆さん、入学おめでとうございます。

本校は、昭和35年4月に福岡県立若松高等学校商業科が分離独立して設置され、創立62年目を迎える歴史と伝統ある商業高校です。

創立以来、目覚ましい発展を遂げ、校訓である「自立、創造、協力」の涵養(かんよう)と校是(こうぜ)である「強いところ」を育てる教育活動を行い、今日までに14,000名余りの優れた先輩方を地域社会はもとより、全国へ更には世界へと送り出してきました。教職員はもちろん、これら多くの先輩方も新入生の皆さんが本校において大きく成長することを願っています。

さて、新入生の皆さんに、高校生活を迎えるに当たり学習や学校生活を送るための心構えをお伝えします。江戸時代『古事記伝(日本最古の歴史書「古事記(こじき)」を解説した書物)』を著わした國學(こくがく：我が国の国史、文化の研究)の大成者である本居宣長(もとおりのりなが)先生は、その入門書である『初山踏(ういやまぶみ)』において「勉強というものは、才能の有無でも、暇のあるなしでもない。いかに学问と向き合って努力するか、その姿勢によるのだ」と記(しるし)ています。先人は、何百年も前から、私たちに「心構えが大切なのだ」と伝えていきます。

また、幕末の教育者である吉田松陰(よしだしょういん)先生は「志を立てて、もって万事の源となす」と教えています。志を立てること。将来の目的を定めて、これを成し遂げようとする。立志(りっし)といいます。

学習、進路実現、部活動等、どれも目標を立てることから始まります。大切なことは、短期的でもよいかから目標を持つことです。才能の有無(うむ)ではありません。目標達成のために今何をしなければならぬのかを自ら考え実践(じっせん)する。目標を実現すれば人として大切な「自信と誇り」が生まれます。失敗しても教訓(きょうくん)が残ります。この経験を繰り返すことにより、たくましい魂が育ちます。そして、これらの経験は人生において永遠の宝物になります。

「才能の有無ではない」 「志を立てて、もって万事の源となす」

— 令和三年度第六十二回入学式 校長式辞から —

ようこそ若商へ1 - 先輩方が新入生を迎えるため、あたたかい準備を行いました -

第62回入学式について、在校生の先輩が新入生の皆さんを迎えるために、会場設営をはじめとして準備を行いました。「書道同好会」や「写真同好会」は、3月から作業を行い校門前の掲示板への揮毫や作品展示を行いました。

「標を築け、若商健児」

「若松を見つめ、若松を動かします」

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます、全校生徒・職員一同、心から新入生の皆さんを歓迎します。



ようこそ若商へ2 - 歓迎遠足について -

4月16日(金)に「歓迎遠足」を実施します。全校生徒で学校から徒歩にて響灘緑地グリーンパークに行きます。みんなで**若商かつば弁当**を食べます。そして、楽しい歓迎行事により、輝く思い出となるよう、生徒会の皆さんが準備を進めています。

響灘緑地グリーンパークは「水・緑・そして動物たちとのふれあい」を基本テーマにした市内最大の公園です。地域にはこのような素晴らしい施設(観光資源)があります。若商生の皆さんの若く柔軟な発想で「**地域を見つめ、地域を動かす**」ことを考えてみましょう。

